寺報
得源寺

第 8 号
発行 ＝ 真宗
大谷派得源寺
住職 大橋友啓
☎ 0767-68-2096

世の中が崩れて行く！

住職　大橋友啓

床の間に「南無阿弥陀仏」の六字の名号を掛けているお宅があります。ご門徒宅で、気がつけば降ろすようにお願いをしています。

これは、仏壇を購入できなかった時代に、お寺などから借りたご本尊を掛けてきた時代の作法ですので、仏壇を購入してご本尊を安置できた時点で必要なくなります。

親鸞聖人から数えて八代目の本願寺の住職であった蓮如上人の『御一代記聞書』(聖典八六八)の中で、

他宗には、「名号よりは絵像、絵像よりは木像」と、云うなり。当流には、「木像よりはえぞう、絵像よりは名号」と、いうなり。

とあるように、六字の名号を御本尊としてきましたから、仏壇と床の間に御本尊を二つも安置する必要はありません。むしろしてはいけません。特に、葬儀が終って床の間に設けた中陰壇に遺骨を安置する際に、六字の名号を掛けることがありますが、必要ないことです。どうしても掛けておきたいならお内仏の扉を閉めてください。

コロナ禍をきっかけに、世の中が急に変わってしまい、古くから伝承されてきたものが次々と滑り出したら止まらない雪崩のように中止になったり廃止になったりしています。何やら訳の解らないものは、この際やめようということでしょう。

仏事もその一つのようですが、住まいを見ても、「仏壇」や「床の間」が何をする場所かも分からなくなっています。その証拠に、毎日のように入ってくる新築住宅の新聞チラシには仏間や床の間が見当たりません。

「仏壇の入っとらん家は、家とは言わん」

と言った時代は、完全に過去のこととなりました。

仏壇とは、箪笥やテーブルなどと同じで、仏様を安置する家具のことです。中に仏様が安置されると私たちの宗派では、『お内仏』と称して、家具と一線を画すのです。

コロナ禍のどさくさに紛れて古い伝統的なものを排除しようとする動きは、日本人の豊かな精神性を否定しながら経済、つまりお金儲けによって幸福を得ようとする方向に舵を切った明治維新に似ています。

昔の人々に仏教による高い教養を提供したのが、当寺でも年間三〇日勤めていた祠堂経会の法話にほかなりません。日中の二席に続き、夜も二席の法話があったのですから、もの凄い数の仏法を聴聞して来たのです。

よって、名号を掛けたりする必要のない事は知っていたのです。それがなぜ今に伝わっていないのか。それは、お年寄りの話なんか誰も聞いて来なかったことに起因するのです。

ご弔慰に感謝

三月五日の前坊守命終の際は、多くの方々から御弔慰を賜り有難うございました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

本来なら、ご門徒皆々様のご協力をいただくところでしたがコロナ禍の中、総代さんと田鶴浜地区の門徒さん中心にお手伝いいただいて葬儀が執行出来ました。今月一二日は、もう百ケ日です。

報告！門徒総代会

三月二〇日春の祠堂経会終了後に総代会を開催。

深田忠夫氏命終に伴う門徒総代に山口益美氏を新しく選定しご承諾いただきました。これで、男女均等法案に伴う二名の女性総代が誕生いたしました。

続いて、住職から前坊守葬儀に伴う収支決算の中間報告がありました。

お知らせ!!

（二〇二一年六月〜九月）

こんごう会

とき　七月一日(木)
　　午後二時　お始まり
　　二時半　住職挨拶

飲食をともなう行事の自粛規制に従って、昨年同様法要のみとさせていただきます。

詳細は、ハガキでお伝えいたしますが、「密」を避けたいという方は、二日から五日までの四日間に「祠堂経」を勤めますので、そちらの方にお参りくださいますようおすすめします。

夏の祠堂経会（しどうきょうえ）

祠堂経会は、ご門徒に限らず仏の教えを聞きたいという全ての方に開放された法座です。

毎日二席のご法話と正信偈の同朋唱和がありますので、どなたでも自由にお参りください。

とき　七月二日(金)から
　　五日(月)まで
　　午後二時　お始まり
講　師　大島　顕正　氏
　　（高岡市荒屋敷）

帰敬式講座（ききょうしき）

コロナ禍が落ち着いたらご案内を差し上げます。

秋の祠堂経会（しどうきょうえ）（別経）

従来は、九月一日から五日間にわたって勤めていましたが、農作業の状況変化に伴って、秋の彼岸会を満座にして、今年は三日間とします。

日程の変更に伴って、九月に祠堂日が決まっているお宅には当方で三日間に振り分けをして通知を差し上げますのでよろしくお願いします。

とき　九月二一日(火)〜
　　二三日秋分の日
　　午後二時　お始まり
講　師　広瀬彰一氏
　　（六水町徳善寺住職）

今号の脳トレ

	懐	
最	□	風
	都	

今回も、十字クロスに挑戦してください。
真ん中の口に文字を入れてください。

※　種明かしは次号です。

何

前号の答えで〜す。

お寺で出来る小さなお葬式

庫裏（仏間）に野卓を設営

仏式の葬儀は元々そんな大掛かりなものではなく。百年ほど前から、葬儀の後の火葬場へ向かう前に、近親者でお別れの会みたいなことを告別式と称して行っていたものが、いつの間にか野卓に写真を掲げたりして葬儀と一体化し大型化したのです。

近年は、小型化すると同時に宗教的な部分を排除するといった傾向があります。

そこで、遺族が希望する仏式（真宗）の葬儀をお寺で出来るようにしてこの四月に実際に執行いたしました。詳細は、得源寺のホームページをご覧ください。　（釋友啓）